

明治美術学会 会員業績録

(2006年4月1日～2007年3月31日)

この夏、会員に対し2006年4月1日～2007年3月31日の間に発表した主要論文等3点以内の報告を依頼した。以下がそのリストである。
なお、よせられたもののうち上記期間以前の業績については、記載したが、以後のものは省いた。リストの作成は喜夢孝臣がおこなった。

名前	共著者	論文名／書名	掲載誌／掲載書	発行	巻号	刊行年月
青木茂		新・旧刊案内	「一寸」	書痴同人	26～29号	2006年5月、 8月、10月、 2007年1月
青木茂		『書痴、戦時下の美術書を読む』		平凡社		2006年8月
青木茂		『展覧会評—森鷗外と美術』	『美術研究』	東京文化財研究所	391号	2007年3月
荒井経		日本画の画材と“自由”	『美術手帖』	美術出版社	886号	2006年9月
荒井経	柏木聖子・ 越智波留香	岩絵具の新表現・横山大観『山路』 (京都国立近代美術館蔵)の調査報告	『東京学芸大学紀要芸術・ スポーツ科学系』	東京学芸大学	58集	2006年10月
池田博子 (横山大観記 念館)		大観の東南アジアに取材した作品について	『館報』	財団法人横山大観 記念館	22号	2006年7月
石井元章		長沼守敬の中の「イタリア」	『長沼守敬とその時代展』 図録	長沼守敬とその時代 展実行委員会		2006年7月
石井元章		記念碑に込めたヴェネツィアの思い—長 沼守敬作『毛利家群像』についての一考察	『芸術文化研究』	大阪芸術大学大学院	11号	2007年3月
稲賀繁美		Is Art History Globalizable?	<i>Is Art History Global ?</i> James Elkinns (ed.)	Routledge		2007年
稲賀繁美		Use and Abuse of Images in Japanese History Textbooks and the History Textbook controversy of 2000-2001	<i>Historical Consciousness, Histriogra- phy, and Modern Japanese Values</i> James Baxter (ed.)	International Research Center for Japanese Studies		2006年9月
稲賀繁美		Images changeantes de l'art japonais: Depuis la vue impressionniste du Japon à la controverse de l'esthétique orientale (1860-1940)	<i>JTLA (Journal of the Faculty of Letters, The University of Tokyo, Aesthetics)</i>	Faculty of letters, The university of Tokyo	29/30号	2005年3月
今橋映子		『ブラッサイバリの越境者』		白水社		2007年3月
岩切信一郎		画家小林萬吾と歌誌「心の華」	「一寸」	書痴同人	28号	2006年10月
岩切信一郎		鎌木清方と春陽堂の『新小説』	『鳥合會と『新小説』の時代』	鎌倉市鎌木清方 記念美術館	鎌木清方 記念美術 館叢書 8	2006年12月
岩切信一郎		渡邊新板画の形成—研究・復刻・創作事業 について—	『浮世絵芸術』	国際浮世絵学会	153号	2007年1月
植田彩芳子		横山大観筆(聴法)制作背景としての「エクス プレッション」—画中人物の感情表現をめぐ って—	『美学』	美学会	57巻1号	2006年6月
植田彩芳子		国立新美術館および「日展—〇〇年展」に ついて	『LOTUS』	日本フェノロサ学会	27号	2007年3月
植野健造		坂本繁二郎—生涯と芸術—	『石橋美術館開館50周年 記念坂本繁二郎展』図録	石橋財団石橋美術 館、石橋財団プリヂ ストン美術館		2006年4月
植野健造		洋画と彫刻 (第四章第二節第二項)	『柳川文化資料集 第三 集 柳川の美術Ⅱ』	柳川市		2007年3月
植野健造		日本近代美術史研究と新聞記事資料	『アート・ドキュメンテー ション研究』	アート・ドキュメン テーション学会	14号	2007年3月
後小路雅弘		帝国大学のパブリックアート—青山熊治「九 州大学工学部壁画」	『美術研究』	東京文化財研究所	389号	2006年6月
江川佳秀		日本人にとってのエコール・ド・パリ	『巴里憧憬エコール・ド・パ リと日本の画家たち展』図録	美術館連絡協議会		2006年7月
江川佳秀		長谷川利行初期刊『みつゑ』『講談雑誌』 『吾妹』	『徳島県立近代美術館紀要』	徳島県立近代美術 館	9号	2007年3月
及川茂	R. Buckland, T. Clark	<i>A Japanese Menagerie-Animal Pictures by Kawanabe Kyosai</i>		The British Museum Press		2006年10月
及川茂		暁斎の滑稽な化物たち	『〈対話と深化〉の次世代女性 リーダーの育成』	お茶の水女子大人間 文化研究科		2006年10月
及川茂		Le Livre illustré dans la seconde moitié du XIX e siècle (Kyosai)	<i>Du pinceau à la typographie</i> (marguet 他編)	Ecole Française d'Extrême Orient		2007年1月

大谷省吾		大正期の自画像の“背景”について	『モダン・パラダイス展』図録	東京国立近代美術館ほか		2006年8月
大谷省吾		シュルレアリスムと行動主義—小松清、福沢一郎、矢崎博信を中心に	『近代画説』	明治美術学会	15号	2006年12月
大谷省吾		鏡光、その眼の向かうところ	『生誕100年 鏡光展』図録	東京国立近代美術館ほか		2007年3月
大谷芳久		《城沼の冬》—藤牧版画の後摺りについて13	『一寸』	書痴同人	27号	2006年8月
大谷芳久		《夜の浅草六區》—藤牧版画の後摺りについて14	『一寸』	書痴同人	28号	2006年10月
大谷芳久		《出を待つ永井智子(マルグレット)》—藤牧版画の後摺りについて15	『一寸』	書痴同人	29号	2007年1月
大槻晃実		洋画家 櫻井忠剛	『図説 尼崎の歴史』	尼崎市立地域研究史料館	下巻	2007年1月
大坪潤子	吉崎雅親	『港区人物誌 三 高橋是清』		港区教育委員会		2007年3月
岡戸敏幸		竹の肖像—大窪詩佛「画竹碑」について—	『美術史研究』	早稲田大学美術史学会	44冊	2006年12月
岡本隆志		明治の彫金—海野勝珉とその周辺	『明治の彫金—海野勝珉とその周辺』展図録	宮内庁		2006年9月
岡本隆志		三代清風與平について(二)	『三の丸尚蔵館年報・紀要』	宮内庁	12号	2007年3月
五十殿利治		大正期新興美術運動の概要と研究史	『大正期新興美術資料集成』	国書刊行会		2006年12月
五十殿利治		第二回未来派美術協会展(一九二一年開催)と詩人たち	『ユリイカ』	青土社	38巻11号	2006年9月
五十殿利治		視覚文化研究の先駆者・板垣鷹穂	『彷徨月刊』	彷徨舎	23巻3号	2007年3月
片平幸(真鍋幸)		庭園をめぐる「わび」「さび」「幽玄」—1930年代における「幽玄」を中心に	『わび・さび・幽玄—「日本的なるもの」への道程』	水声社		2006年9月
片平幸(真鍋幸)		欧米における日本庭園像の形成と原田治郎のThe Gardens of Japan	『日本研究』	国際日本文化研究センター	34集	2007年3月
亀井志乃		『人生を奏でる二組のデュオー—有島武郎と木田金次郎 里見淳と中戸川吉二—』展図録		北海道立文学館		2007年2月
川喜一穂		天心岡倉覚三の美術史「研究」—「古画備考」を中心に—	『大阪芸術大学短期大学部紀要』		31号	2007年3月
喜寿孝臣		プロレタリア美術運動と造型美術家協会	『近代画説』	明治美術学会	15号	2006年12月
木下直之		『わたしの城下町』		筑摩書房		2007年3月
木下直之		建築家と記念碑	『シリーズ都市・建築・歴史』	東京大学出版会	8巻	2006年4月
金原宏行		ワイエスの絵画・序論	『アンドリュウ・ワイエス水彩素描展』図録	常葉美術館		2006年10月
金原宏行		福田半香の人と芸術	『福田半香展』図録	田原市博物館		2006年10月
桑原規子		恩地孝四郎の《「氷島」の著者・萩原朔太郎像》をめぐる—占領期における欧米人コレクターと創作版画の国際的評価	『藝叢』	筑波大学大学院人間総合科学研究科研究室	23号	2007年3月
桑原規子		新興美術家協会の成立と消滅1935-1943—玉村善之助、恩地孝四郎、小野忠重、伊藤蕪朔の周辺—	『聖徳大学言語文化研究所論叢』	聖徳大学	14号	2007年2月
桑原規子	(共著)	『世界に誇れる日本の芸術家555』		PHP 研究所		2007年3月
河野元昭		光琳と乾山 山根有三先生の墓前に捧ぐ	『美術史家、大いに笑う—河野元昭先生のための日本美術史論集』	ブリュッケ		2006年4月
河野元昭	(共著)	『ザ プライス コレクション』		小学館		2006年9月
河野元昭		高橋由一 貝図	『國華』	國華社	1334号	2006年12月
児島薫		藤島武二の(東洋)	『日本における外来美術の受容に関する調査・研究報告書』	東京文化財研究所		2006年3月
児島薫		藤島武二における(西洋)と(東洋)	『美術史家、大いに笑う—河野元昭先生のための日本美術史論集』	ブリュッケ		2006年4月
五味美里		絵画の章	『Liberty』	美研インターナショナル		2006年6月
五味美里		大川先生の思い出	『木心彫舎大川暎—回想』	三好企画		2006年11月
齊藤祐子		『構造社』研究—商業美術と「構造社」—	『藝叢』	筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術学研究室	23号	2007年3月

佐伯英里子		総論	『名画動物園』	勉強出版社		2006年10月
佐伯英里子		個人所蔵「三十番神絵像」小考	『佛教芸術』	毎日新聞社	288号	2006年9月
酒井忠康		『画家の日記』		余市豆本の会		2007年2月
迫内祐司		斎藤松洲	『彷彿月刊』	彷彿舎	248号	2006年6月
迫内祐司		『美術』の統制—日本美術報国会とその周辺	『文星芸術大学大学院研究科論集』	文星芸術大学芸術理論研究室	1号	2006年6月
佐々木央		近代(焼絵)補遺(4)	『日本の民芸』	財団法人日本工芸館	601号	2006年4月
佐々木央		近代(焼絵)補遺(5)・(6)	『日本の民芸』	財団法人日本工芸館	604・605号	2006年10・12月
佐々木央		近代(焼絵)補遺(7)	『日本の民芸』	財団法人日本工芸館	606号	2007年2月
佐藤志乃 (横山大観記念館)		ベンガル派によるウォッシュの試み—大観・春草との交流の一側面—	『館報』	財団法人横山大観記念館	22号	2006年7月
佐藤道信		『美術のアイデンティティ—誰のために、何のために』		吉川弘文館		2007年3月
佐藤道信		神韻の燦光	画集『手塚雄二作品集 夜想』	小学館		2006年5月
澤田佳三		目的芸術としての戦争美術とプロレタリア美術—「昭和の美術」展を通して	『国際シンポジウム戦争と表象／美術20世紀以後記録集』(長田謙一編)	美学出版		2007年2月
澤田佳三		空虚な変更—戦争記録画・石井柏亭作「軍艦出雲」と下絵との比較から	『新潟県立万代島美術館研究紀要』	新潟県立万代島美術館	2号	2007年3月
塩谷純		団十郎の“腹芸”、雅邦の“心持”	『美術史家、大いに笑う—河野元昭先生のための日本美術史論集』	ブリュッケ		2006年4月
重村幹夫		コラージュによる絵画表現についての考察—教育上の意義を中心に—	『大学美術教育学会誌』	大学美術教育学会	39号	2007年3月
清水恵美子		岡倉覚三とボストン—ガードナー美術館の「中国室」を中心とした調査研究—	『鹿島美術研究』	鹿島美術財団	23号別冊	2006年11月
清水恵美子		岡倉覚三とボストン—ボストン美術館中国日本美術部経営に関する研究—	『魅力ある大学院教育』イニシアティブ活動報告書	お茶の水女子大学	海外研修事業編	2006年9月
清水恵美子		岡倉覚三のオペラ台本—内在する歌舞伎とヴァーグナー	『比較文学』	日本比較文学会	49号	2007年3月
清水重教		松室重光と古社寺保存	『日本建築学会計画系論文集』		613号	2007年3月
清水重教	(共著)	『復元思想の社会史』(鈴木博之編)		建築資料研究社		2006年6月
春原史寛		清水登之日記の研究—15年戦争期を中心に	『鹿島美術研究』	財団法人鹿島美術財団	23号別冊	2006年11月
高尾曜		蒔絵盃	『柳川の美術Ⅱ』	柳川市教育委員会		2007年3月
高尾曜		柳川藩立花家伝来の印籠と御用蒔絵師	『柳川の美術Ⅱ』	柳川市教育委員会		2007年3月
高木博志		『近代天皇制と古都』		岩波書店		2006年7月
高階絵里加		須田剋太の『縄文記号』をめぐる	『美術史家、大いに笑う—河野元昭先生のための日本美術史論集』	ブリュッケ		2006年4月
高階絵里加		『フランスから来た「日本」—『蜻蛉集』挿絵について』	『日仏交感の近代』(宇佐美斉編)	京都大学学術出版会		2006年5月
高島由紀		『画家の疎開—藤野町における藤田朗治と新制作派協会の画家たち—』	『美術史研究』	早稲田大学美術史学会	44冊	2006年12月
瀧井直子		藤雅三の墓	『近代画説』		15号	2006年12月
滝沢恭司	五十殿利治ほか	『大正期新興美術資料集成』		国書刊行会		2006年12月
滝沢恭司		ミクロネシアの誘い—1934年、染木煦の南洋群島行	『アジア地域における版画文化と版画教育の現状』	武蔵野美術大学版画研究室		2007年3月
滝沢恭司		河田煦と大正期新興美術運動	『町田市立国際版画美術館紀要』	町田市立国際版画美術館	11号	2007年3月
竹山博彦		彫刻の鈴木賢二—戦時下の活動とその後	『鈴木賢二作品集 時代を彫刻む』	鈴木賢二版画館如輪房		2007年1月
立花義彰		静岡近代美術年表稿明治編(下)	『静岡県博物館協会研究紀要』	静岡県博物館協会	30号	2007年3月
立花義彰		静岡近代美術年表稿大正編	『静岡県博物館協会研究紀要』	静岡県博物館協会	29号	2006年3月

立花義彰	台湾徘徊記	『アートマガジン エル・アール・リターンズ』	書肆・博物誌	4～8号	2005年7月～ 2006年8月
田中修二	彫刻家の収支の記録—新海竹太郎(1868～1927)の資料から—	『第8回日本アートマネジメント学会全国大会予稿集』	日本アートマネジメント学会		2006年11月
田中修二	齋藤素庵の視線—彫刻家とその作品が見つめるもの	『齋藤素庵の仕事 共同研究 小平市所蔵齋藤素庵研究と作品の保存・活用について』	武蔵野美術大学彫刻学科研究室		2007年3月
田中秀隆	茶道文化継承の外的条件—海外交流・評価創出・伝統認識	『アジア遊学』	勉誠出版	88号	2006年6月
田中秀隆	三つの紹鷗茄子—「大正名器鑑の方法と遺産」	『金鱗叢書』	財団法人徳川黎明会徳川美術館	33号	2006年10月
田中秀隆	『お茶はあこがれ』		書肆フローラ		2006年9月
谷口英理	前衛絵画と機械的視覚メディア—古賀春江から瑛九へ	『近代画説』	明治美術学会	15号	2006年12月
丹尾安典	桜坂の清尚	『沖縄の壺体 國吉清尚』展図録	早稲田大学会津八一記念博物館		2006年7月
丹尾安典	近代土下座考	『記憶と歴史 日本における過去の視覚化をめぐる』	早稲田大学会津八一記念博物館		2007年3月
丹尾安典	山口八九子資料Ⅴ—大正五年句録—	『会津八一記念博物館研究紀要』	早稲田大学会津八一記念博物館	8号	2007年3月
千葉慶	近代天皇制国家におけるアマテラス—両性具有性のゆくえ—	『ジェンダー史学』	ジェンダー史学会	2号	2006年11月
千葉慶	『逆コース』の予感—黒澤明『野良犬』を読む	『家父長制世界システムにおける戦時の女性差別の構造的的研究(若菜みどり編)』	科研報告書		2007年3月
千葉慶	『入れ替え不能性』をめぐる思考—宮台真司の『亜細亜主義』を読む	『表現学部紀要』	和光大学表現学部	7号	2007年3月
角田拓朗	五姓田義松作品集についての小考	『神奈川県立歴史博物館だより』	神奈川県立歴史博物館	173号	2007年1月
手塚恵美子	日本人美術家のジャポニスム受容と林忠正	『林忠正—ジャポニスムと文化交流[日本女子大学叢書3]』	ブリュッケ		2007年2月
寺門寿明	明治に植物画の先駆者がいた—五百城文哉	『美術の窓』	生活の友社		2006年5月
寺門寿明	『高山植物図幅』倫敦探案行—五百城文哉とW・ウェストン	『耕人』	耕人社	12号	2006年6月
寺門寿明	『訣別』への予兆、そして『終わりからの始まり』のひとつづの終わり	『村山隆治「置換装置」展』図録	ギャラリー木葉下		2006年8月
中島朋子	Defining "Japanese Art" in America	『The Japanese Journal of American Studies』	日本アメリカ学会	17号	2006年
西恭子	美術学校史研究—その1 日本美術学校(大正7年から昭和11年:草創期から校主交代まで)	『横浜美術短期大学 教育・研究紀要』	学校法人トキワ松学園横浜美術短期大学	3号	2007年3月
西恭子	図画工作科教育におけるコミュニケーション	『美術科教育の「これまで」から「これから」を考える』	紫峰図書		2007年3月
芳賀徹	日本におけるポール・クローデル	『クローデルと日本—クローデル歿後50年記念シンポジウム論文集』(芳賀徹他編)	七月堂		2006年11月
芳賀徹	住まいの感覚、家への夢—日本詩歌のなかの住居の表現	『Aube 比較藝術学』	京都造形大学・比較藝術学研究センター	1号	2006年11月
芳賀徹	文学と芸術の森—京都の鳥瞰図	『芸術都市の創造—京都とフイレンツェの対話』(今道友信他編)	PHP 研究所		2006年6月
林洋子	住居としてのアトリエ	『Aube 比較藝術学』	京都造形大学・比較藝術学研究センター	1号	2006年11月
林洋子	藤田嗣治とアメリカ:1930—1950	『GENESIS』	京都造形大学	10号	2006年9月
林洋子	1920年代前半の藤田嗣治の裸婦表現再考	『国際シンポジウム「バリ・1920年代藤田嗣治」報告書』	京都造形大学・比較藝術学研究センター		2007年3月
廣瀬就久	東島毅の絵画 1988—2006	『東島毅展』図録	岡山県立美術館		2007年2月
福永和代	クローデルと日本画・日本画家	『クローデルと日本 クローデル歿後50年国際会議・シンポジウム論文集』	七月堂(クローデル歿後50年記念委員会)		2006年11月
福永和代	紅茶文化とジャポニスムのティーウェア	『ジャポニスムのテーブルウェア—西洋の食卓を彩った「日本」展図録』	産経新聞大阪本社		2007年2月

福永和代		章・作品解説、略年譜（共編、山本茂雄）	『生誕120年 富本憲吉のデザイン空間』展図録	松下電工汐留ミュージアム		2006年7月
舟木力英		遠藤彰子の芸術—遠い日の世界	『遠藤彰子展』図録	茨城県つくば美術館		2006年7月
松井貴子		響き合う句画—子規と不折の《猫・海老・行水・重ね絵》	『宇都宮大学国際学部研究論集』	宇都宮大学国際学部	23号	2007年3月
松井貴子		《フィールド・ミュージアム・ネット》の展開と「子規庵」研究Ⅱ	『多摩美術大学研究紀要』	多摩美術大学	21号	2007年3月
松井貴子		もうひとつの句画交響—子規庵新資料の子規と為山	『俳句朝日』	朝日新聞社	142号	2007年3月
クリストフ・マルケ (Christophe Marquet)		フランスに渡った京伝「近世奇跡考」の草稿本	『江戸文学』	ペリかん社	35号	2006年11月
クリストフ・マルケ (Christophe Marquet)	Jocelyn Bouquillard	HOKUSAI MANGA		LE SEUIL—BNF		2007年4月
クリストフ・マルケ (Christophe Marquet)	(編集)	DU PINCEAU A LA TYPOGRAPHIE		EFEO		2006年
三上美和		富本憲吉の初期色絵作品と大原孫三郎の後援について	『東京国立近代美術館研究紀要』	東京国立近代美術館	11号	2007年3月
三上美和		仏教美術再評価と近代日本画—安田鞠彦筆「夢殿」に見る聖徳太子顕彰—	『鹿島美術研究年報』	財団法人鹿島美術財団	23号別冊	2006年11月
宮下規久朗		『食べる西洋美術史—最後の晩餐—から読む』		光文社新書		2007年1月
宮下規久朗		『イタリア・バロック—美術と建築』		山川出版社		2006年11月
宮田徹也		かたちの発生とその評価—美術史的見解から	『形の科学会誌』	形の科学会	21巻3号	2007年3月
宮本高明	満谷昭夫	『満谷国四郎残照』		創元社		2006年10月
村田隆志		巻筆から水筆へ—日本毛筆、変革の時を巡って	『第5回書法文化書法教育国際会議論文選』	大阪教育大学書法研究室		2007年3月
村上敬		昭和初期のヴィジュアルイメージ	『ボックスアート展』図録(大分市美)	モマ・コンテンポラリー		2006年7月
村上敬		鶴外とミュージアム 遊就館整理事業をめぐって	『森鶴外と美術』展図録(鳥根県立美術館他)	同展実行委員会		2006年7月
村上敬		防衛庁防衛研究所図書館所蔵「関保之助意見」について	『静岡県立美術館紀要』	静岡県立美術館	22号	2007年3月
森登		江戸期銅版年表	『一寸』	書痴同人	27号	2006年8月
森登		山本覚馬「京都名所案内」と石田版	『一寸』	書痴同人	28号	2006年10月
森登		『輿地誌略』覚え書き	『一寸』	書痴同人	29号	2007年1月
森仁史		Japanese and American Design through Russel Wright	Russel Wright—Living with Good Design	Decorative Arts Center of Ohio		2006年5月
森仁史		新しい時代・新しい世紀・新しい人—森谷延雄の登場と遺産	『没後80年 森谷延雄展図録』	佐倉市美術館		2007年1月
森仁史		工芸の来し方、行く方—豊田勝秋の足跡を追って	『生活の(かたち)豊田勝秋のあゆみに見る昭和の工芸展図録』	福岡県立美術館		2007年1月
森芳功		重松鶴之助—写真により見つめたもの、江戸文化に託そうとしたもの	『美術運動史研究会ニュース』	美術運動史研究会	80号	2006年4月
森芳功		富岡鉄斎(書簡 今泉氏宛)をめぐって—鉄斎の赤穂義士顕彰活動、鉄斎と今泉雄作の交流	『日本史学年次別論文集 近現代(三)2004年版』	朋文出版		2007年1月
安松みゆき		ドイツ近代の女流画家 ツェツィーリエ・グラーフ・プファフによる新年のカード	『芸術学論叢』	別府大学文学部芸術文化学会	17号	2007年2月
安松みゆき		第一次大戦ドイツ人捕虜の芸術活動	『国際シンポジウム 戦争と表象/美術 20世紀以後』	美学出版		2007年3月
安松みゆき		ドイツ第三帝国における日独文化交流と日本美術—日独文化協会発行「日独文化」を資料にして	『別府大学大学院紀要』	別府大学大学院文学研究科	9号	2007年3月
柳沢秀行		インバクト展へのノート—第一次世界大戦前後のバリ在住日本人画家を基点にして—	『インバクト 東と西の近現代—もう一つの大原美術館』展図録	大原美術館		2006年7月

柳沢秀行		岡山 近代洋画の歴史 昭和戦前期までの歩み	『吉備の歴史と文化』(早稲田大学日本地域文化研究所編)	行人社		2006年12月
山浦健夫		会津ハーと安宅安五郎	『新潟日報』			2007年3月7日付
山本佐恵		輸出された日本のイメージー1939年ニューヨーク万国博覧会で上映された日本映画	『映像学』	日本映像学会	77号	2006年11月
山本佐恵		ニューヨーク万国博覧会と工芸ー文化宣伝と輸出振興	『藝叢』	筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術学研究室	23号	2007年3月
山本佐恵		国家宣伝と美術ー1939年ニューヨーク万国博覧会日本館の出品画について	『芸術学研究』	筑波大学大学院人間総合科学研究科	11号	2007年3月
山領まり		イスパニア国女帝コロンブス引見の図 亜欧堂田善筆	『東京国立博物館文化財修理報告』	東京国立博物館	VII	2007年3月
山領まり		上野博物館玄関ホール・中央階段室(平面、展開)	『東京国立博物館文化財修理報告』	東京国立博物館	VII	2007年3月
吉崎真弓		「女流」と「前衛」ー第19回二科展第九室と女性画家たち	『藝叢』	筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術学研究室	23号	2007年3月
吉田千鶴子		竹内久ー作掛川戦捷観音原型雛形について	『東京芸術大学大学美術館年報』		平成12～14年度版	2006年3月
吉田千鶴子		東京美術学校デザイン教育史	『近代日本デザイン史』	美学出版		2006年11月
吉田千鶴子	(編著)	『木心彫舎回想』		三好企画		2006年11月
依田徹		岡倉天心における Ideal の位相ー「妙想」から「理想」へー	『五浦論叢』	茨城大学	13号	2006年11月
依田徹		岡倉天心の日本美術史時代区分に関する考察ー「近世」規定と「円山応挙」論をめぐって	『東京芸術大学美術学部論叢』	東京芸術大学	3号	2007年3月